

計画の概要

1 小笠原諸島の特性

- 東京から南に約 1,000km 離れた太平洋上に位置し、排他的経済水域の約 3 割を確保。海洋資源の開発・利用、海洋環境の保全等、国の安全上及び経済上重要な地域
- 特異な島しょ生態系を形成するとともに、特異な地質・地形を有する貴重でかけがえのない自然の宝庫
- 日本に返還され帰島がかなうまで、四半世紀に及ぶ島民の不在

2 成果及び課題

- 住宅等の生活基盤、道路等の交通基盤、ほ場等の産業基盤の整備を行い、相応の成果
- 産業の低迷 : 本土との遠隔性や後継者不足等から、整備基盤の活用が不十分
観光客が特定月に集中し、閑散期の集客対策が課題
- 自然への影響 : 外来種の持ち込みなどが希少な自然環境に影響
外来種対策の実施が、世界自然遺産登録に向けての課題
- 交通アクセス : 本土から片道所要時間が約 2 6 時間、週約 1 便の航路に限定
- 生活環境の整備 : 医療・保健・福祉が不十分
施設の老朽化や大規模津波等への対策が必要
高速大容量の通信回線が未整備

3 今後の方向

～自然環境の保全と産業振興の両立による自立的発展を目指す～

施策の方向	主要施策
ア 自然と共生した定住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・保健・福祉の充実 ・返還当初に建設され老朽化した施設の更新、東南海・南海地震等の発生に伴う大規模津波等への対策 ・自然環境との調和に十分配慮した航空路の将来の開設について幅広く検討 ・情報通信環境の整備などにより、生活の利便性や医療・福祉の向上に資する取組の推進
イ 地域資源の積極的・持続的活用	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原固有の資源を積極的かつ持続的に活用し、地域を活性化 ・世界自然遺産登録に向けた取組の推進 ・他地域との交流促進等により、さらなる地域振興
ウ 地元の発意と創意工夫の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・住民、事業者、関係産業団体、NPOなどが互いに連携・協力し、創意工夫 ・活力ある地域づくりを担う人材育成を積極的に推進
エ ソフトとハードを一体とした総合的な施策の推進 (ア) エコツーリズムを機軸とした島内産業の振興 (イ) 多様な観光客層の開拓に向けた新たな観光振興 (ウ) 環境と調和した景観の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・産業間の連携を強化し、多様な観光産業を振興 ・自然環境を活用したエコツーリズムによる振興 ・新たな観光メニューの開発 ・教育旅行やシニア層、外国人観光客の誘致を強化 ・環境と調和した景観の創出や良好な景観の保全 ・景観法等による規制・誘導で良好な景観の創出